

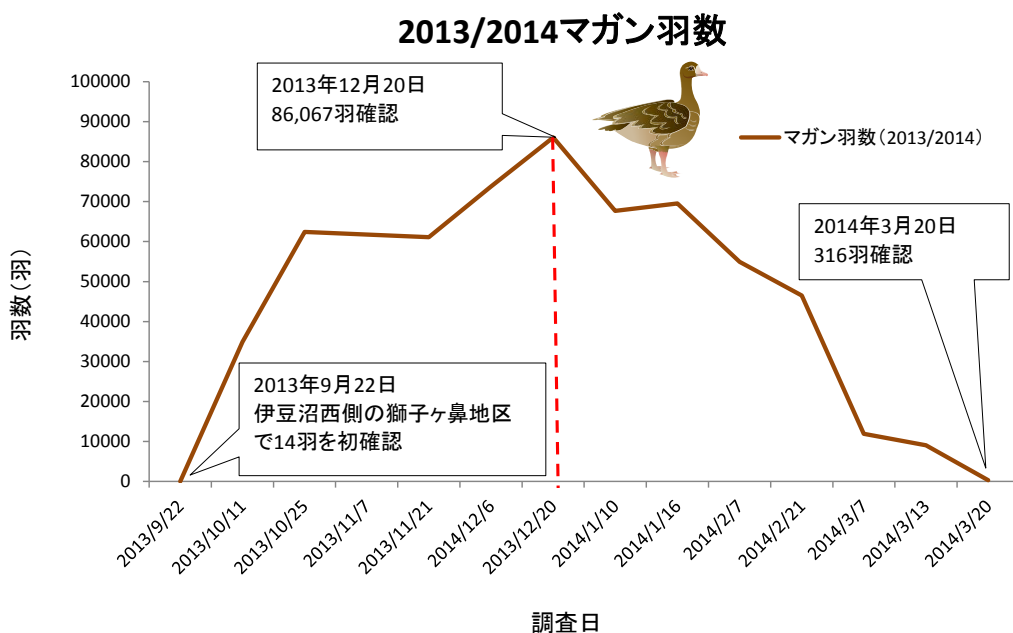
2014年4月

伊豆沼・内沼 サングチュアリセンターニュース Vol. 46

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail : izunuma@circus.ocn.ne.jp

今年度の伊豆沼・内沼のマガン羽数調査結果

今回の冬も伊豆沼・内沼にはマガンやハクチョウなど多くの水鳥が越冬のためにやってきました。その初飛来は昨年(2013)の9月22日で、伊豆沼西側の獅子ヶ鼻地区で14羽のマガンが羽を休めていました。また、オオハクチョウの初飛来は10月10日で、22羽が伊豆沼の近くの水田で確認されました。その後も沼にやってくる鳥の数は増え続け、マガンは12月20日に86,067羽に、オオハクチョウは1月16日に5,038羽に達しました。たくさん水鳥が冬を過ごす伊豆沼・内沼ですが、例年ですと、2月上旬からマガンが北へと帰り始めます(北帰行と言います)。しかし、今年は寒波の影響により北帰行が遅れ、2月7日でも54,942羽のマガンが沼に残っていました。今年の本格的な北帰行は、2月下旬から3月初旬にかけてで、マガンの個体数がこの時期に急激に減少しました。今年度の調査最終日である3月20日には、沼に残るマガン、オオハクチョウやカモ類は、888羽だけとなり、多くの鳥たちが北へと帰って行きました。



春の伊豆沼・内沼いきもの観察マップ

いろいろないきものが生息する伊豆沼・内沼。春の伊豆沼・内沼を散歩してみよう！



ウグイス※

春を代表する野鳥です。鳴き声は有名ですが、姿を見ただけでは少ないと思います。沼に面するヨシ原や藪で見ることが出来ます。



ホオジロ※

大きさは色はスズメに似ていますが、目の上に白い帯があるので、見分けられます。沼周辺のヨシ原で見ることが出来ます。

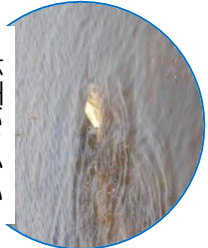


ケリ※

ハトくらいの大きさの鳥で、4月頃に田んぼの畦で繁殖します。カラスなどの天敵が近づくと「ケツケツケツ」と大きな声で威嚇します。



フナの産卵



ニホンアカガエル



4～5月になると、フナやコイが一斉に産卵します。普段は沼の深い場所にいる大きなフナやコイが、背中が出るほどの浅瀬にきてヨシなどに卵を産み付けます。

3～4月に沼の浅瀬や田んぼで産卵



オオバン

全身が黒く、足は長く、ハトより少し大きい鳥です。陸上を歩くのが得意ですが、水面で泳いでいたり、水中に潜ることもあります。



カイツブリ

大きさは、20cmくらいで、沼や池で見られます。水中に潜って小魚やエビをつかまえます。「キュリリリリ...」という独特な声で鳴きます。

ニホンアカガエルの卵

※wikipediaより